

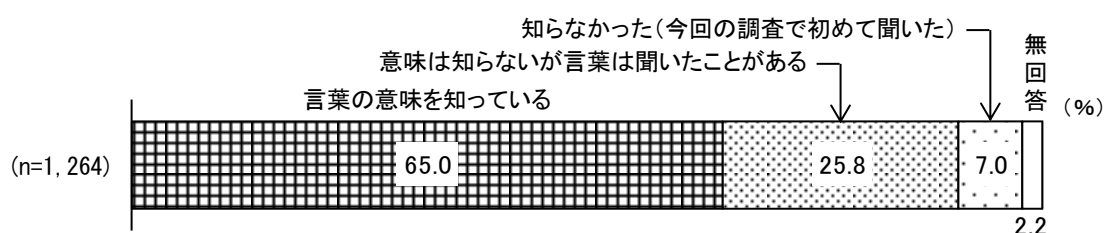
第9章 子どもの貧困対策【問47～問53】

1 「子どもの貧困」の言葉の意味の認知度【問47】

【全体の状況】

「子どもの貧困」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「言葉の意味を知っている」が65.0%で最も多く、次いで「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が25.8%であった。(図表9-1-1)

図表9-1-1 「子どもの貧困」の言葉の意味の認知度



【地域別の状況】

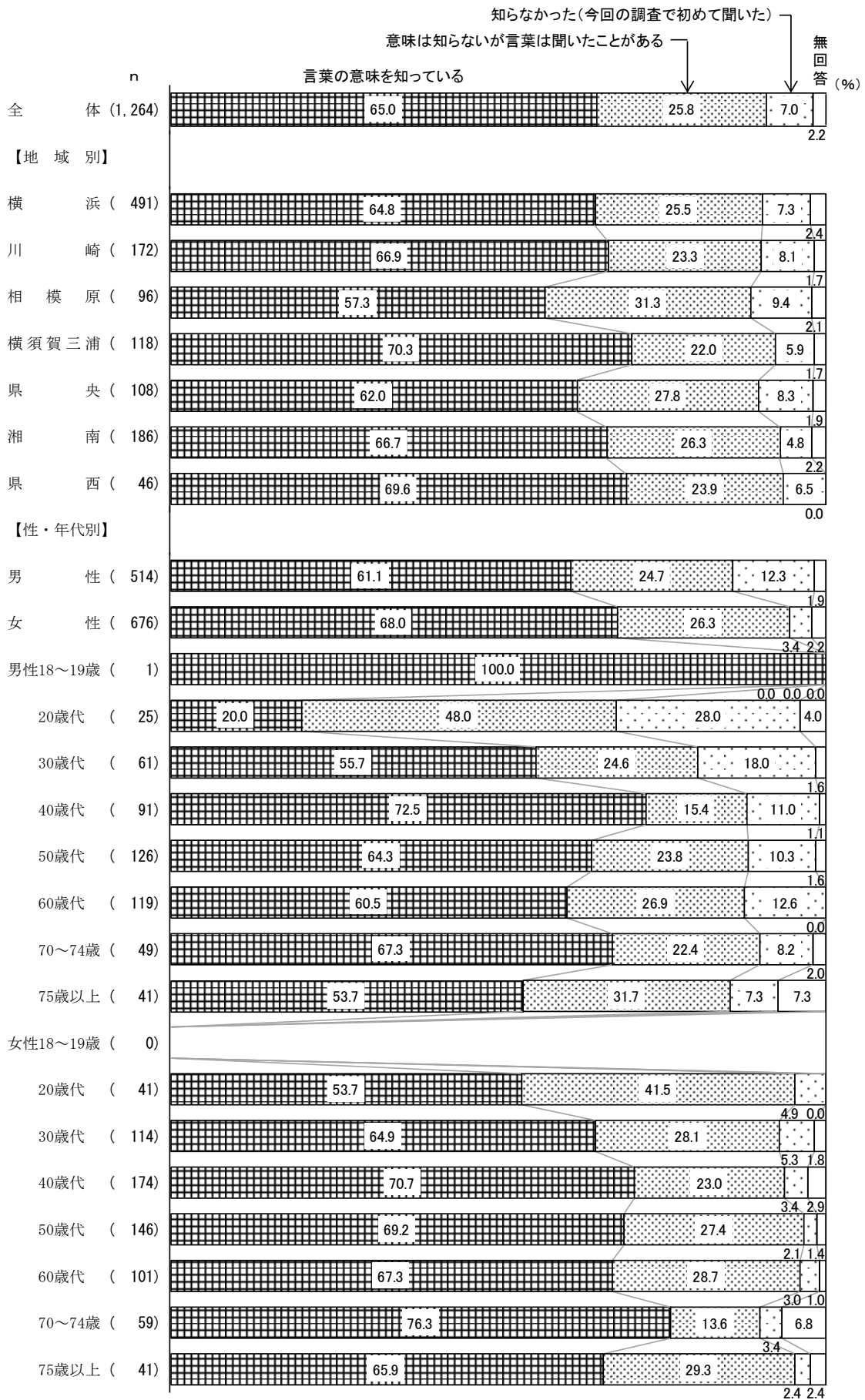
地域別にみると、「言葉の意味を知っている」は、横須賀三浦が70.3%で最も多く、次いで県西が69.6%であった。(図表9-1-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「言葉の意味を知っている」は、女性(68.0%)が男性(61.1%)を6.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「言葉の意味を知っている」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男女の40歳代(男性72.5%、女性70.7%)と女性の70～74歳(76.3%)がそれぞれ7割を超えた。(図表9-1-2)

図表9-1-2 「子どもの貧困」の言葉の意味の認知度—地域別、性・年代別



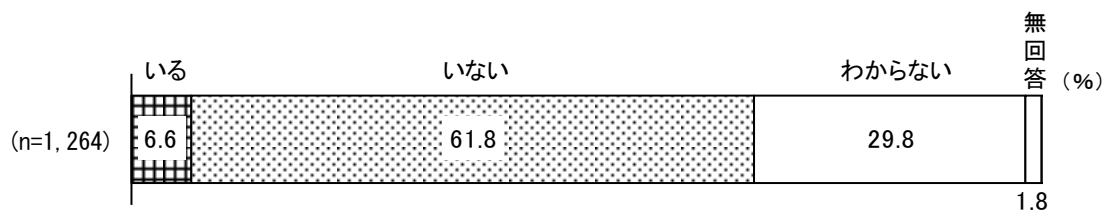
2 身近で支援を必要とする子どもの有無【問48】

【全体の状況】

身近（近所や職場、知人、親戚など）に、経済的に苦しく行政等による支援が必要だと思われる子どもがいるか尋ねたところ、「いる」が6.6%であった。

一方、「いない」は、61.8%であった。（図表9-2-1）

図表9-2-1 身近で支援を必要とする子どもの有無



【地域別の状況】

地域別にみると、「いる」は、相模原が11.5%で最も多く、次いで県西が10.9%であった。

一方、「いない」は、県西（54.3%）と相模原（53.1%）を除く5地域（60.2%～65.6%）がそれぞれ6割を超えた。（図表9-2-2）

【性・年代別の状況】

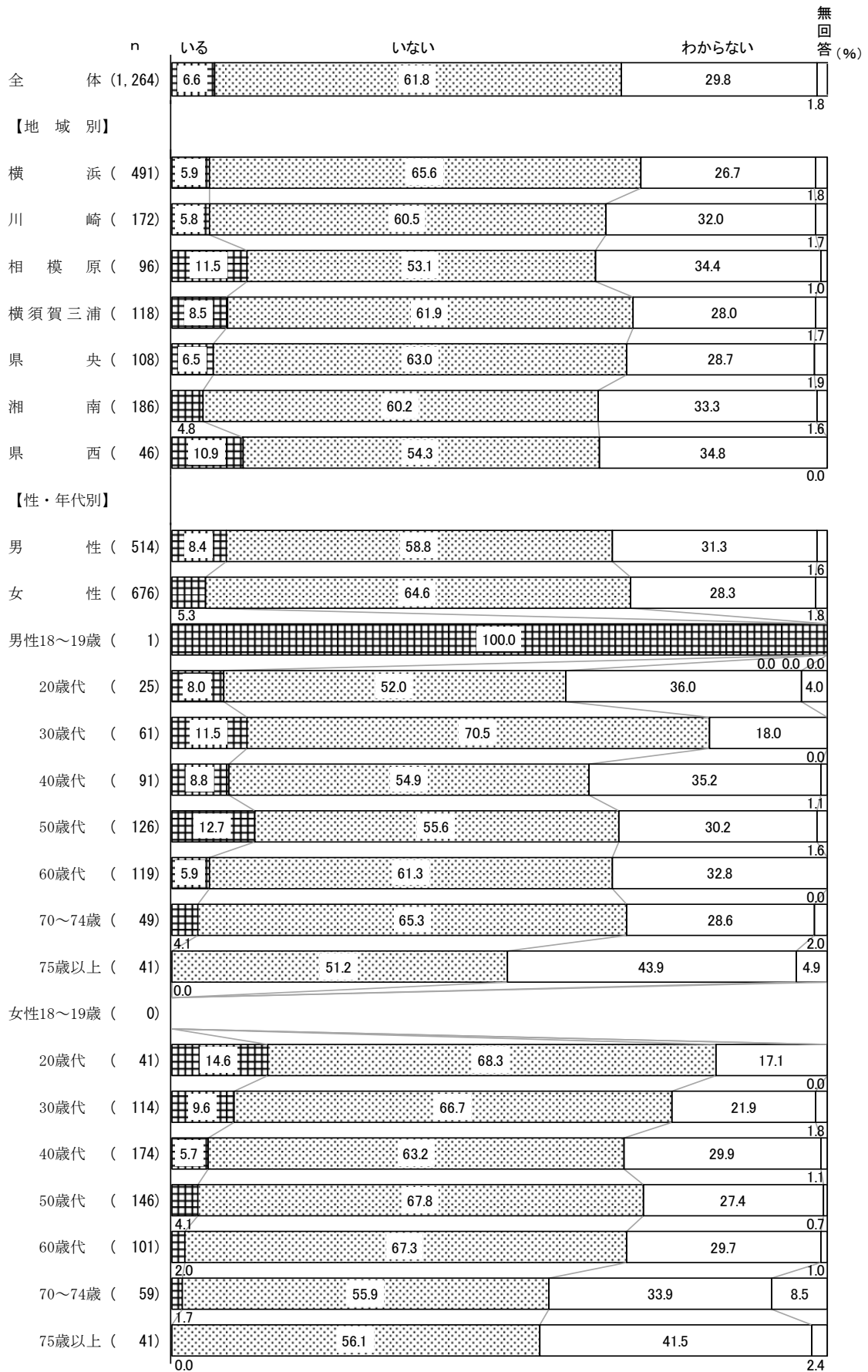
性別にみると、「いない」は、女性（64.6%）が男性（58.8%）を5.8ポイント上回った。

性・年代別にみると、「いる」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が14.6%で最も多く、次いで男性の50歳代が12.7%であった。

一方、「いない」は、男性の30歳代が70.5%で最も多く、次いで女性の20歳代が68.3%であった。

（図表9-2-2）

図表9-2-2 身近で支援を必要とする子どもの有無—地域別、性・年代別



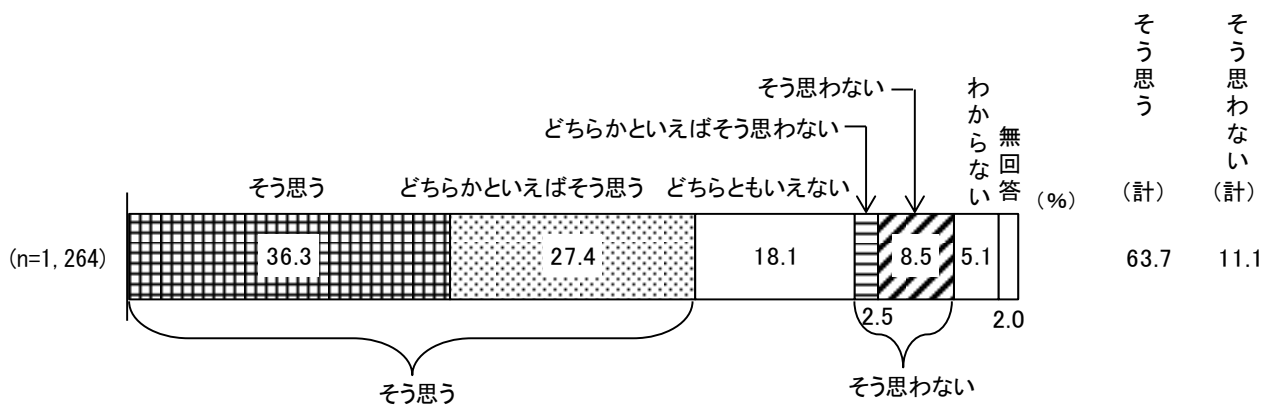
3 世代を超えた貧困の連鎖【問49】

【全体の状況】

貧困は世代を超えて連鎖している（貧困の状態ですぐれた人の子どもも貧困におちいってしまう）と思うか尋ねたところ、「そう思う」（36.3%）と「どちらかといえばそう思う」（27.4%）を合わせた《そう思う》は63.7%であった。

一方、「そう思わない」（8.5%）と「どちらかといえばそう思わない」（2.5%）を合わせた《そう思わない》は11.1%であった。（図表9-3-1）

図表9-3-1 世代を超えた貧困の連鎖



【地域別の状況】

地域別にみると、《そう思う》は、県央（58.3%）を除く6地域（60.8%～67.4%）がそれぞれ6割を超えた。

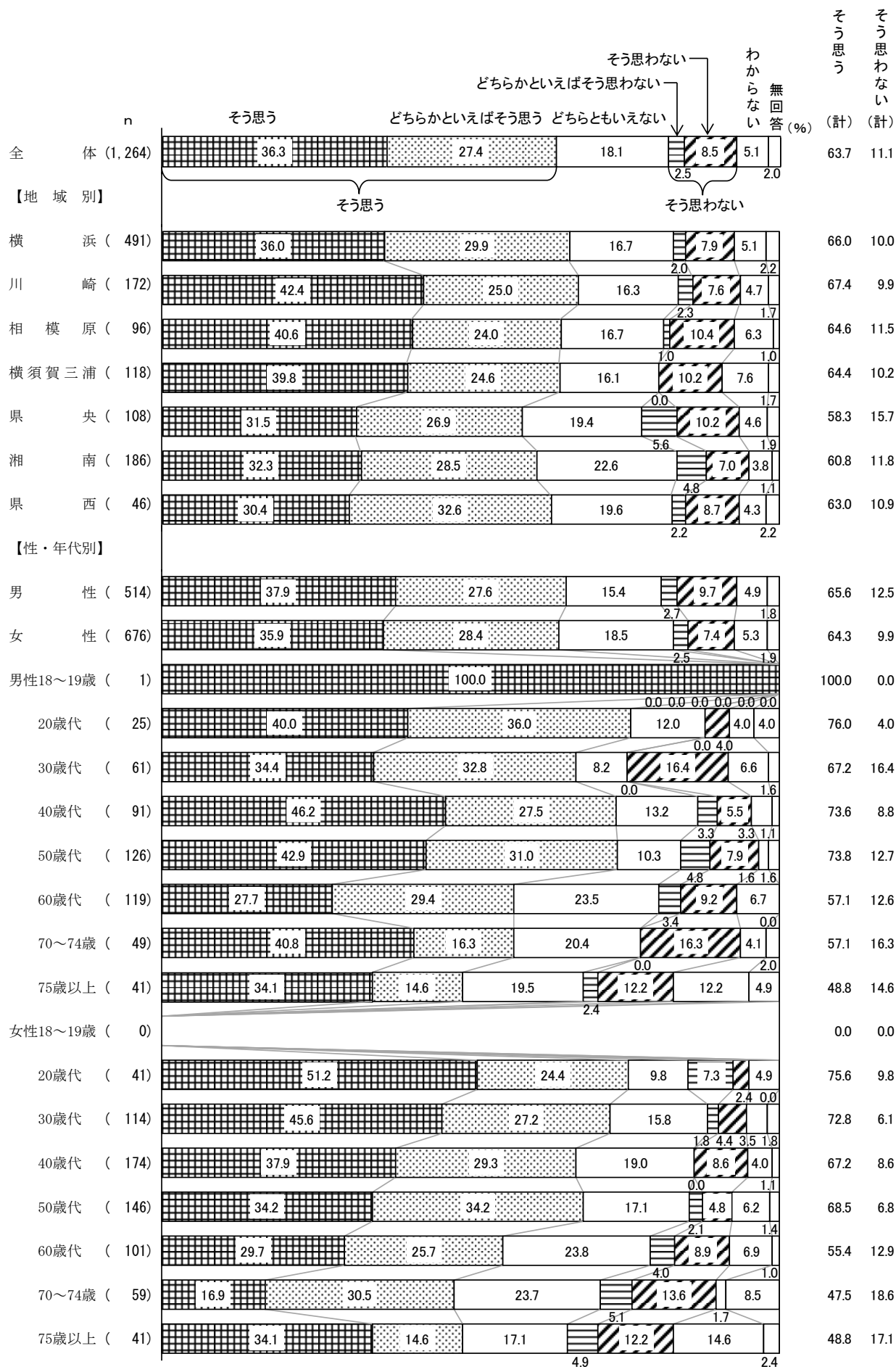
一方、《そう思わない》は、県央が15.7%で最も多かった。（図表9-3-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《そう思う》は、サンプル数の少ない男性の18～19歳・20歳代を除くと、男性の40歳代（73.6%）・50歳代（73.8%）、女性の20歳代（75.6%）・30歳代（72.8%）がそれぞれ7割台であった。

一方、《そう思わない》は、女性の70～74歳が18.6%で最も多かった。（図表9-3-2）

図表9-3-2 世代を超えた貧困の連鎖—地域別、性・年代別

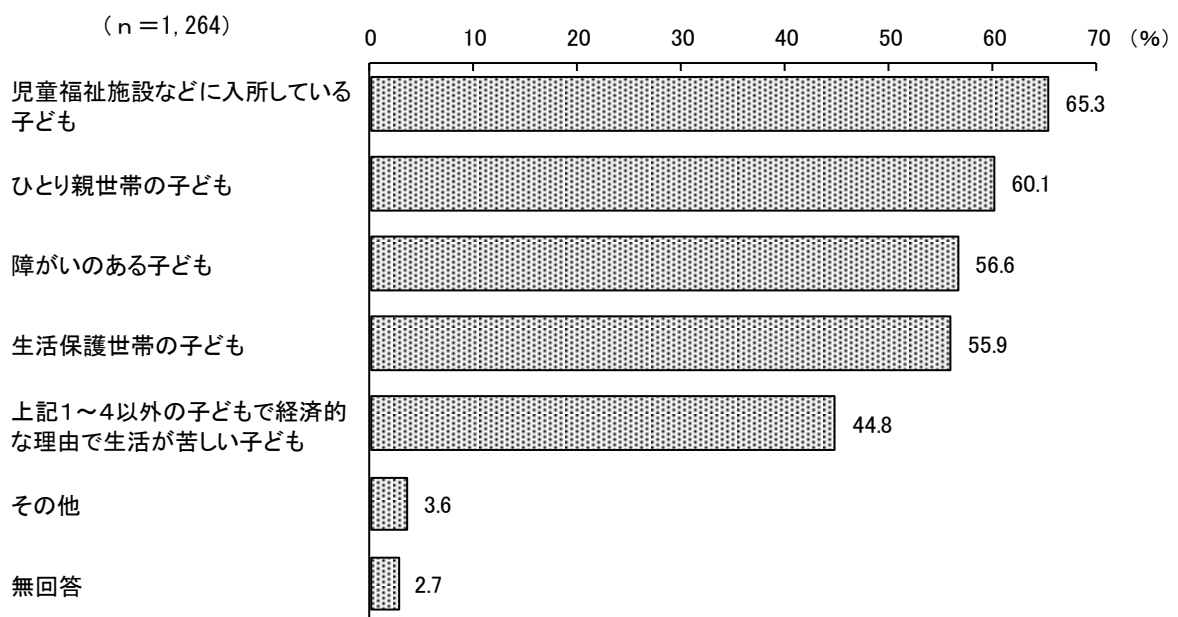


4 行政等による支援が必要な子ども【問50】

【全体の状況】

どのような子どもに対して行政等による貧困対策の支援が必要だと思うか複数回答で尋ねたところ、「児童福祉施設などに入所している子ども」が65.3%で最も多く、次いで「ひとり親世帯の子ども」が60.1%であった。（図表9-4-1）

図表9-4-1 行政等による支援が必要な子ども（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「児童福祉施設などに入所している子ども」は、横須賀三浦が75.4%で最も多かった。（図表9-4-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「障がいのある子ども」は、男性（61.1%）が女性（52.7%）を8.4ポイント上回った。

性・年代別にみると、「児童福祉施設などに入所している子ども」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男性の30歳代が77.0%で最も多く、次いで女性の20歳代が75.6%であった。

（図表9-4-2）

図表9-4-2 行政等による支援が必要な子ども（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	児童福祉施設などに入所している子ども	ひとり親世帯の子ども	障がいのある子ども	生活保護世帯の子ども	上記1～4以外の子どもで経済的な理由で生活が苦しい子ども	その他	無回答
全体	1,264	65.3	60.1	56.6	55.9	44.8	3.6	2.7
【地域別】								
横浜	491	61.5	58.9	56.6	56.4	41.3	3.5	2.9
川崎	172	69.8	66.3	54.7	53.5	45.3	3.5	1.7
相模原	96	68.8	58.3	57.3	47.9	42.7	3.1	4.2
横須賀三浦	118	75.4	63.6	57.6	61.9	53.4	3.4	3.4
県央	108	60.2	58.3	55.6	53.7	46.3	7.4	2.8
湘南	186	64.5	61.3	57.5	61.3	46.8	3.2	1.1
県西	46	69.6	47.8	54.3	45.7	43.5	2.2	2.2
【性・年代別】								
男性	514	65.6	62.6	61.1	57.6	41.1	4.5	2.9
女性	676	65.1	58.4	52.7	55.3	47.2	3.3	2.2
男性18～19歳	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-
20歳代	25	56.0	68.0	48.0	64.0	40.0	12.0	4.0
30歳代	61	77.0	65.6	62.3	57.4	41.0	1.6	-
40歳代	91	67.0	65.9	58.2	54.9	38.5	1.1	3.3
50歳代	126	63.5	60.3	59.5	57.9	45.2	6.3	2.4
60歳代	119	70.6	62.2	68.1	56.3	40.3	3.4	-
70～74歳	49	59.2	69.4	57.1	59.2	40.8	4.1	6.1
75歳以上	41	51.2	48.8	63.4	61.0	36.6	9.8	9.8
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	75.6	68.3	58.5	56.1	43.9	-	-
30歳代	114	66.7	54.4	57.0	62.3	38.6	2.6	1.8
40歳代	174	69.0	57.5	50.0	52.3	46.6	2.9	1.1
50歳代	146	67.8	54.1	56.8	58.9	50.0	4.8	2.1
60歳代	101	60.4	63.4	50.5	53.5	55.4	3.0	3.0
70～74歳	59	55.9	64.4	47.5	44.1	42.4	-	6.8
75歳以上	41	48.8	58.5	43.9	56.1	53.7	9.8	2.4

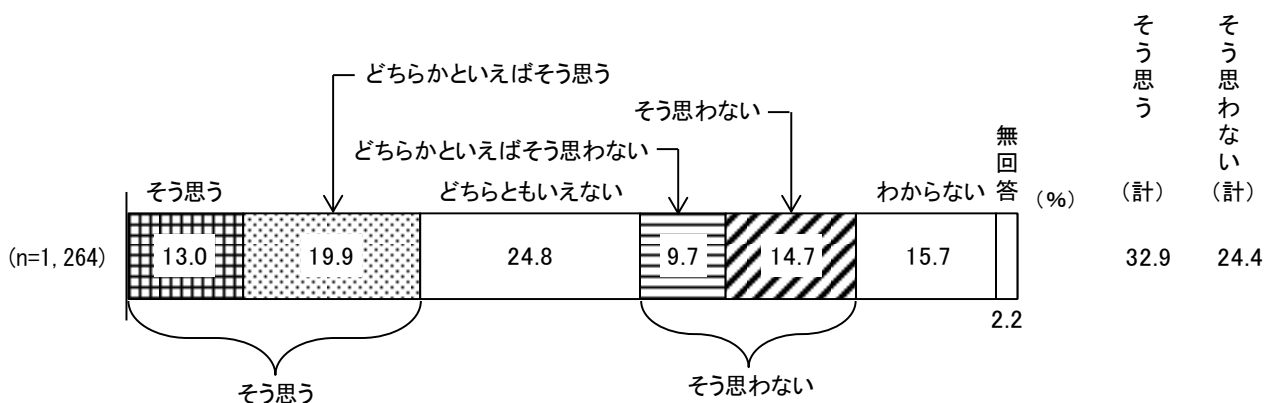
5 子どもの貧困対策に関連する施策の充実度【問51】

【全体の状況】

子どもの貧困対策に関連する神奈川県の実策が、子どもの貧困問題の解消のために十分だと思うか尋ねたところ、「そう思う」（13.0%）と「どちらかといえばそう思う」（19.9%）を合わせた《そう思う》は32.9%であった。

一方、「そう思わない」（14.7%）と「どちらかといえばそう思わない」（9.7%）を合わせた《そう思わない》は24.4%であった。（図表9-5-1）

図表9-5-1 子どもの貧困対策に関連する施策の充実度



【地域別の状況】

地域別にみると、《そう思う》は、湘南（38.2%）と横須賀三浦（38.1%）がともに約4割であった。

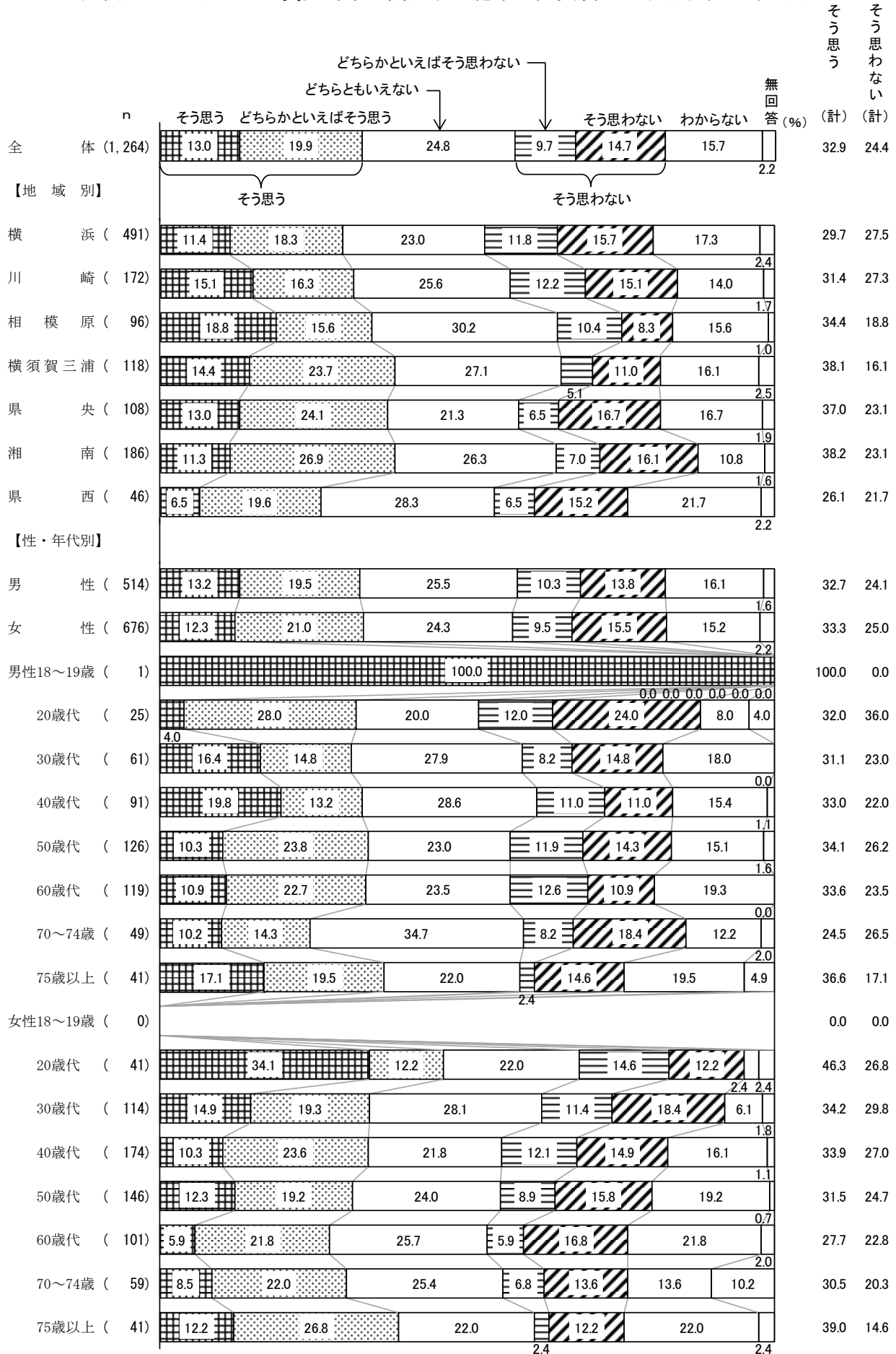
一方、《そう思わない》は、横浜が27.5%で最も多く、次いで川崎が27.3%であった。（図表9-5-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《そう思う》は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が46.3%で最も多かった。

一方、《そう思わない》は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、女性30歳代が29.8%で最も多かった。（図表9-5-2）

図表9-5-2 子どもの貧困対策に関連する施策の充実度—地域別、性・年代別

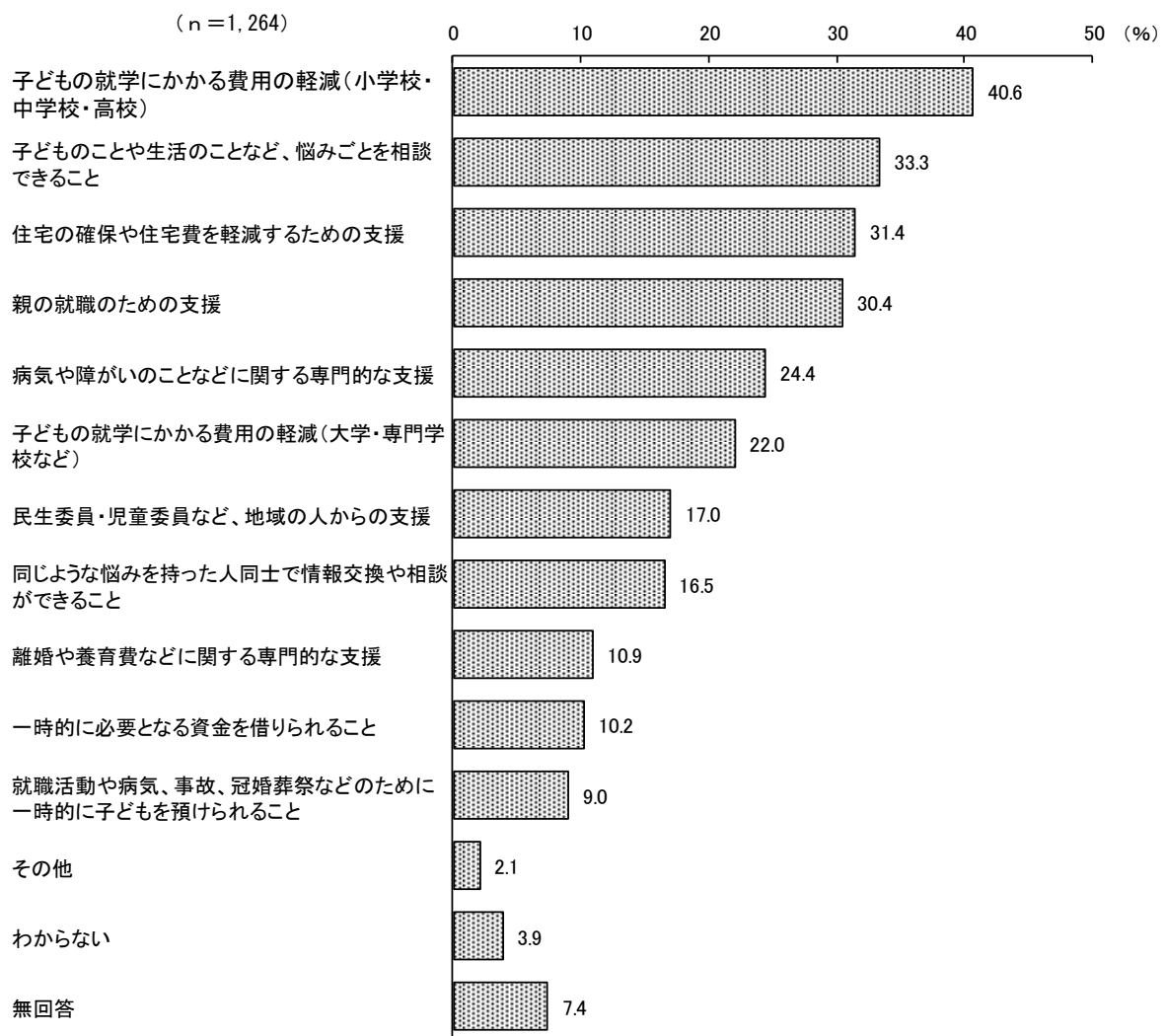


6 子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援【問52】

【全体の状況】

子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援はどのようなものか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「子どもの就学にかかる費用の軽減（小学校・中学校・高校）」が40.6%で最も多く、次いで「子どものことや生活のことなど、悩みごとを相談できること」が33.3%であった。（図表9-6-1）

図表9-6-1 子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「子どもの就学にかかる費用の軽減（小学校・中学校・高校）」は、川崎が46.5%で最も多かった。（図表9-6-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「子どもの就学にかかる費用の軽減（小学校・中学校・高校）」は、男性（45.5%）が女性（36.4%）を9.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「子どもの就学にかかる費用の軽減（小学校・中学校・高校）」は、男性の30歳代が55.7%で最も多かった。（図表9-6-2）

図表9-6-2 子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援（複数回答）
—地域別、性・年代別

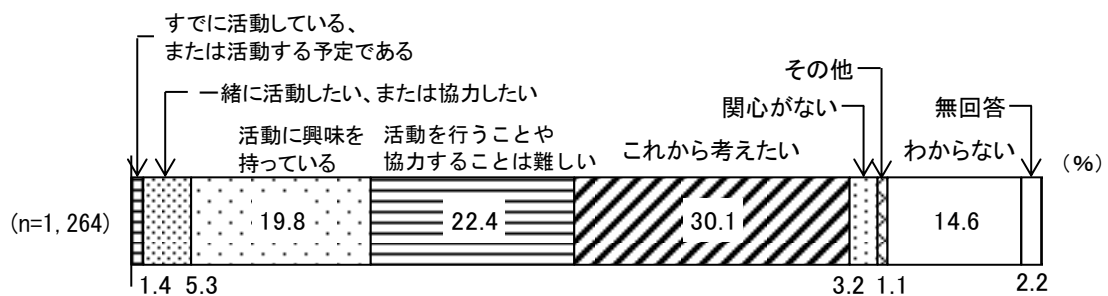
		(%)													
	n	子どもの就学にかかる費用の軽減（小学校・中学校・高校）	子どものことや生活のことなど、悩みごとを相談できること	住宅の確保や住宅費を軽減するための支援	親の就職のための支援	病気や障がいのことなどに關する専門的な支援	子どもの就学にかかる費用の軽減（大学・専門学校など）	民生委員・児童委員など、地域の人の支援	同じような悩みを持った人同士で情報交換や相談ができること	離婚や養育費などに関する専門的支援	一時的に必要なとなる資金を借りられること	就職活動や病気、事故、冠婚葬祭などのために一時的に子どもを預けられること	その他	わからない	無回答
全体	1,264	40.6	33.3	31.4	30.4	24.4	22.0	17.0	16.5	10.9	10.2	9.0	2.1	3.9	7.4
【地域別】															
横浜	491	41.1	33.0	30.5	30.3	25.7	21.8	15.3	18.1	10.8	9.4	10.0	1.6	3.1	6.5
川崎	172	46.5	33.1	30.8	27.9	21.5	17.4	20.9	15.7	9.3	12.2	9.9	4.1	4.1	7.6
相模原	96	35.4	37.5	24.0	29.2	22.9	18.8	19.8	21.9	11.5	10.4	7.3	2.1	3.1	12.5
横須賀三浦	118	37.3	23.7	34.7	30.5	24.6	27.1	14.4	16.1	13.6	10.2	9.3	2.5	5.1	7.6
県央	108	29.6	37.0	28.7	31.5	29.6	20.4	17.6	23.1	11.1	12.0	12.0	2.8	3.7	4.6
湘南	186	43.0	34.9	37.6	36.0	21.0	25.3	16.1	10.2	8.6	10.8	6.5	1.1	2.7	8.1
県西	46	41.3	37.0	30.4	26.1	37.0	17.4	26.1	6.5	13.0	10.9	6.5	2.2	6.5	8.7
【性・年代別】															
男性	514	45.5	33.5	29.4	28.2	27.0	18.7	19.3	17.5	9.3	9.9	8.0	2.1	3.7	7.0
女性	676	36.4	33.3	33.4	32.7	23.1	24.0	15.1	16.3	11.8	10.8	10.1	2.2	3.4	7.7
男性18～19歳	1	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
20歳代	25	52.0	28.0	24.0	16.0	32.0	20.0	12.0	16.0	12.0	8.0	8.0	-	4.0	12.0
30歳代	61	55.7	27.9	24.6	27.9	24.6	24.6	4.9	26.2	8.2	6.6	13.1	6.6	1.6	8.2
40歳代	91	49.5	25.3	22.0	31.9	29.7	19.8	18.7	14.3	9.9	13.2	5.5	1.1	3.3	9.9
50歳代	126	40.5	31.0	28.6	28.6	27.0	26.2	19.0	17.5	7.9	7.9	11.1	1.6	3.2	5.6
60歳代	119	44.5	40.3	37.8	26.1	31.1	8.4	21.8	20.2	6.7	10.9	5.9	0.8	5.0	5.0
70～74歳	49	49.0	51.0	34.7	32.7	14.3	20.4	26.5	10.2	16.3	12.2	8.2	2.0	4.1	2.0
75歳以上	41	34.1	29.3	29.3	26.8	26.8	12.2	31.7	14.6	9.8	9.8	2.4	4.9	4.9	9.8
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	36.6	24.4	31.7	31.7	22.0	17.1	7.3	26.8	19.5	7.3	9.8	-	2.4	9.8
30歳代	114	43.9	26.3	38.6	35.1	20.2	29.8	11.4	17.5	6.1	7.0	11.4	0.9	1.8	7.9
40歳代	174	40.2	31.6	28.7	35.1	20.1	29.9	13.8	11.5	16.1	9.8	12.1	4.6	2.3	8.0
50歳代	146	35.6	29.5	34.2	34.9	21.9	21.9	16.4	13.0	14.4	11.0	8.9	2.1	3.4	10.3
60歳代	101	34.7	41.6	36.6	32.7	30.7	17.8	14.9	15.8	6.9	12.9	7.9	2.0	7.9	3.0
70～74歳	59	28.8	42.4	33.9	22.0	27.1	18.6	18.6	25.4	8.5	16.9	8.5	1.7	-	10.2
75歳以上	41	17.1	48.8	29.3	24.4	24.4	19.5	29.3	22.0	9.8	14.6	9.8	-	7.3	2.4

7 地域の支援活動に対する考え方【問53】

【全体の状況】

貧困などの困難な環境にある子どもを身近な地域で支援する活動（学習支援や居場所の提供等）について、どのように考えているか尋ねたところ、「これから考えたい」が30.1%で最も多く、次いで「活動を行うことや協力することは難しい」（22.4%）と「活動に興味を持っている」（19.8%）が続いた。（図表9-7-1）

図表9-7-1 地域の支援活動に対する考え方



【地域別の状況】

地域別にみると、「これから考えたい」は、横浜（31.6%）と川崎（30.2%）がともに3割を超えた。また、「活動に興味を持っている」は、県西が32.6%で最も多かった。（図表9-7-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「これから考えたい」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が48.8%で最も多かった。（図表9-7-2）

図表9-7-2 地域の支援活動に対する考え方—地域別、性・年代別

